

二つの聖地を結ぶ道

琴弾八幡神と観音寺

讃州七宝山縁起は、宇佐八幡宮の八幡神(八幡大菩薩)が、この地が仏法流布の靈地であるとして留まったと記しています。この時、虹のような白雲が宇佐から当山にたなびき、一艘の船が浜に着くと、船の中から琴の音が天にも届くほどに響きました。これに驚いた日照上人が尋ねると、八幡神は国家守護のために当地に留まるといい、これを勧請して琴弾八幡宮としました。後に、空海が唐より帰朝した際に、琴弾八幡宮に参詣し、その運営のために観音寺を建立しました。そして、七宝山修行の初宿にしたと記されます。

修験の道

七宝山修行の道には7宿が定められ、33日間で巡ることが



讃州七宝山縁起に登場する二つの聖地。有明の海から琴弾八幡神が現れ、空海修行の地に釈迦如来が現れたと伝わります。

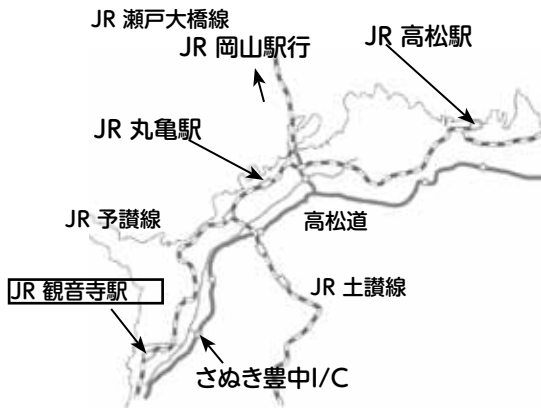
記されています(地図参照)。弥勒菩薩が出世する際に持参する7種の秘法を空海が納めた山として七宝山と呼ばれました。そして、釈迦如来湧現の聖地、我拝師山を最後の結宿として定め、この二つの聖地を結んで修験の道としています。



観音浄土を巡る

鎌倉時代末期の「讃州七宝山縁起」には、観音寺から七宝山を通って我拝師山へ向かう修験の道が記されています。海から現れた琴弾八幡神が鎮座する琴弾山(観音寺)と空海修行時に釈迦如来が湧現した我拝師山(出釈迦寺)は、いずれも釈迦・阿弥陀の両如来のゆかりの地であり、その間に横たわる七宝山には観音浄土の補陀落山(ふだらくせん)があると記されます。この地で修行することで、民衆を観音浄土へ導くと言うのでしょうか。七宝山の中世修験の道をたどり、観音浄土を垣間みます。

アクセス



JR 高松駅から観音寺駅まで50分
さぬき豊中インターから車で20分
観音寺駅から30分



四国学院大学
空海カフェ 2
観光メジャー

香川県善通寺市文京町 3-2-1 760-8505

<http://shigakuweb.jimdofree.com>

印刷 株式会社 弘栄社

* 大学コンソーシアム香川後援



四国遍路のルーツを探して4

七宝山

観音の聖地巡拝

中世修験の道





高屋神社より琴弾山を臨む

中世修験道の道

「讃州七宝山縁起」の世界



1. 観音寺(琴弾八幡宮)

初宿。地主神である琴弾神の霊山である琴弾き山に、海を超えてやってきた八幡神が「別宮」として祀られました。観音寺は当社運営の神宮寺でした。

2. 穂積二天八王子(現高屋神社)

第二宿。穂積山頂の高屋神社は天空の鳥居として有名になりました。「巖」と呼ばれる崖がいくつもあります。



3. 経の瀧(不動ヶ瀧)

第三宿。七宝山の水を集める瀧があり、古くから瀧行の地とされてきました。県内最大の瀧の一つです。



4. 興隆寺(跡)

第四宿。鎌倉～室町時代の石塔群があります。凝灰岩の岩肌に不動明王などの磨崖仏が刻まれています。



5. 岩屋寺

第五宿。江戸時代に本堂側の山肌に観音霊場が開かれました(右写真)。奥には、虚空蔵菩薩が祀られる岩屋があります。



6. 神宮寺(未特定)

第六宿。未特定とされています。近隣の古い神社に浪打八幡宮があります。鎌倉時代に、多度津の道隆寺によって神事が行なわれたという記録があります。



7. 善通寺我拝師山

結宿。修行中の空海の前に釈迦如来が現れたとされる空海の霊跡があります。平安時代の末期に、平安歌人の西行(真言僧でもある)が訪れました。

四国遍路と観音浄土

プレ・四国遍路

平安末期、空海自著の三教指帰に登場する阿波国太龍寺や土佐国金剛頂寺、さらに空海生誕の地、讃岐国善通寺や曼荼羅寺は既に空海の聖跡だったようです。鎌倉時代になると、室戸の最御崎寺などの記述や讃岐七宝山の活発な修験者の活動が見られます。讃州七宝山縁起の中で観音寺の由緒に空海が登場することから、現在の四国遍路札所で語られる空海の伝説は、この時代に定着し始めたようです。また、七宝山を観音浄土と定めることから、修験者の地域の活動が、現在の札所のご本尊にも影響しているのかもしれませんが。

ウォーキング・コース

琴弾八幡宮
散策道(20分)
観音寺
登山道(35分)
高屋神社
登山道(45分)
高屋神社本宮
登山道(75分)
不動ヶ瀧
登山道(30分)
延寿寺・興隆寺(跡)
登山道(30分)
岩屋寺
登山道(75分)
浪打八幡宮
登山道(85分)
我拝師山 禅定
登山道(150分)
所要時間は目安です。

興隆寺跡の石塔群